

WKC フォーラム「最前線を担う看護師 ～グローバルヘルスにおける役割と展望～」

2020 年世界保健デー「看護師・保健師と助産師を支援しよう」記念

2020 年 11 月 23 日（月・祝） 13:00–16:00 オンライン・フォーラム

主催：WHO 健康開発総合研究センター（WHO 神戸センター・WKC）

共催：WHO 神戸センター協力委員会

協力（五十音順）： 関西国際大学 神戸市看護大学 国立国際医療研究センター 聖路加国際大学
東京検疫所 日本看護協会 兵庫県看護協会 兵庫県立大学

プログラム

出演者からのメッセージ

13:00–13:10

開会挨拶

WHO 神戸センター 所長
サラ・ルイズ・バーバー



WHO 神戸センターは、「看護師・保健師と助産師の年」を記念して開催する、初のオンライン WKC フォーラムに、皆さまのご参加を歓迎いたします。この苦境の中でも質の高いケアを提供するためには、様々な人々が垣根をこえて、知識や経験、リソースやネットワークを共有する「連帯 (solidarity)」が大切です。



兵庫県看護協会 会長
成田 康子

新型コロナウイルス感染症に、「オール兵庫で看護職の力を結集して乗り切ろう！」を合い言葉に、病院・施設・保健所・基礎教育機関・潜在看護職等県内すべての看護職が、連携・協力しながら対応してきました。その経験を生かして次に備えていきたいと思っています。

13:10–14:10

第 1 部：

グローバルヘルスと看護 – The State of World's Nursing Report から見える
日本の看護人材の現状と課題 –

国立国際医療研究センター（NCGM）国際医療協力局は、WHO 神戸センターと協力して、2020 年の世界保健デーに発行された「State of World's Nursing 2020 Report」の日本語版を作成した。この WHO 報告書の内容をベースに、日本の看護人材の現状と課題について講演、パネルディスカッションを行う。



座長：

NCGM 国際医療協力局 人材開発部 広報情報課長
田村 豊光

The State of World's Nursing 2020 を通じて、世界の看護の現状を概観します。そのうえで、日本の保健システム強化に資する看護の役割や、教育、労働環境等を含む看護人材開発政策について協議したいと思います。

13:10-13:15

ビデオメッセージ：

WHO チーフ・ナーシング・オフィサー エリザベス・イロ



WHO は 2020 年を「看護師と助産師の年」としました。看護・助産の強化は、それ自体だけでなくジェンダー平等 (SDG5) や、経済の成長 (SDG8) にも貢献します。看護職が長年積み重ねた知識と研究、看護実践を通して、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジと SDGs の達成への貢献を示したいと思います。

13:15-13:25



講演：「The State of World's Nursing Report の概要」

NCGM 国際医療協力局 看護師
駒形 朋子

COVID-19 の流行は、大きな困難と同時に、グローバルな交流なしにはやっていけない実感を世界にもたらしました。グローバルな視点で、世界と日本の看護の課題をみんなで考える機会になればと思います。

13:25-13:45



講演：「いのち輝くすこやかな未来をつくる、看護職のはたらき」

参議院議員 元厚生労働副大臣
たかがい
高階 恵美子

看護職は、いのちと健康に寄り添い支える仕事です。このフォーラムを通して【いのちと健康の大切さ・すこやかな未来の社会】について参加者の皆さまと一緒に考える良い機会になれば嬉しいです。

13:45-14:10

パネルディスカッション 4 名のパネリストによる討議



日本看護協会 常任理事
荒木 暁子

2020 年は、ナース生誕 200 周年、看護師・助産師の国際年です。COVID-19 により看護職が人々の健康や社会の発展に不可欠な存在であることが世界的にも再認識される中、世界の健康向上に寄与すべく、力を発揮してまいりましょう。



聖路加国際大学大学院 国際看護学 教授
WHO プライマリーヘルスケア看護開発協力センター センター長
大田 えりか

看護職の数を増やし、発展させることで「人々の健康の改善」、「男女平等の促進」、「経済発展」の3つの影響をもたらすことが報告され、Nursing now キャンペーンが実施されている。セッションでは、日本の看護人材の現状と課題について考えたい。



千葉大学医学部附属病院 次世代医療構想センター
特任研究員、千葉大学大学院 医学薬学府 学生
櫻庭 唱子

看護職が担う役割は多岐にわたります。今回は、日本の現状を踏まえ、これからの看護職の活用について考えてみます。この機会に多くの学生、若手看護師の皆さんにも関心を持っていただけると嬉しいです。

NCGM 国際医療協力局 駒形 朋子

休憩

14:10-14:20

14:20-15:50

第2部：

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）対応における看護の役割

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）への看護職の対応について、医療機関、保健所、検疫所等から対応の実際を報告いただき、パンデミックによる健康危機管理状況下での看護の役割や今後の課題について検討する。



座長：

兵庫県立大学地域ケア開発研究所 教授
災害健康危機管理 WHO 協力センター センター長
増野 園恵

COVID-19 は社会に多くの課題を突き付けています。看護職は、人々の命と健康、生活を守るために日々その課題に対峙しています。実際に何が起こっているのか、最前線で奮闘する看護職からの報告を共有し、看護の役割と価値を確認しましょう。

14:20-14:30



講演：「病院看護における感染対策と現場のチャレンジ」

兵庫県立尼崎総合医療センター 看護管理室
感染管理認定看護師
大迫 ひとみ

看護師は、隔離という分断の中で、患者と家族に寄り添い、看護を模索し続けてきました。「COVID-19 だからできない医療」から「COVID-19 でもできる医療」へ。今なお、ベッドサイドで患者の生命と尊厳をまもる挑戦を続けています。

14:30-14:40



講演：「COVID19 パンデミック渦における看護管理 ～ 医療従事者の権利、役割、責任を果たすために～」

神戸大学医学部附属病院 看護部管理室 副看護部長
岡本 規子

看護職は最前線で働く仕事であると同時に、ひとりひとりが生活や家庭をもっています。コロナ禍の中における現場業務の課題について、管理者の視点からお話します。

14:40-14:50



講演：「検疫所の活動と COVID-19 看護の視点から」

東京検疫所 検疫衛生課 看護師
鈴木 真奈美

検疫所は、日々、国内には常在しない感染症の侵入を防ぐために、様々な水際対策を行っています。検疫官看護師は国民の皆様の外での健康をお守りするために、感染症・ワクチンについての渡航前・中・後の情報提供や健康相談、港湾衛生、衛生調査など多岐に渡った業務を行っています。

14:50-15:00



講演：「保健所の活動と COVID-19 保健師の視点から」

神戸市保健所 予防衛生課 担当係長 保健師
小寺 有美香

保健師は、平時から地域の関係機関と顔の見える関係づくりを行っています。神戸市は、市内の医療機関・施設と連携した感染症対策「神戸モデル」を通じて、COVID19に取り組んでいます。保健師の視点から、地域の対策の実践についてお話ししたいと思います。

15:00-15:10



講演：「在宅看護における COVID-19 対応とその課題」

神戸市看護大学 在宅看護学 教授
片倉 直子

コロナ禍の折、様々な苦勞の中でお仕事をされていると推察しています。臨床の立場ではありませんが、兵庫県訪問看護ステーション連絡協議会が行った調査のお手伝いをさせていただいた立場から、現況をお伝えしたいと思っています。

15:10 - 15:20

休憩

15:20-15:50

パネルディスカッション 第2部 演者による討議

15:50-16:00

総括・閉会挨拶



総括：
神戸市看護大学 学長
WHO 神戸センター名誉顧問
南 裕子

F・Nightingale がクリミア戦争で傷ついた兵士の死亡率をケアの力で激減させた活動から約 200 年間、ナースは常に保健医療の最前線でかけがえのない活動をしてきたが、自らは「サイレント・ヴォイス」であった。いまこそ声を挙げてグローバルヘルスのさらなる向上に貢献しよう。



閉会挨拶（司会進行）：
WHO 神戸センター医官
茅野 龍馬

看護職は、全ての保健医療従事者と連携して、保健医療の様々な部分で要となる貢献をしています。よりよい未来のために多職種多部門が連携できるプラットフォームをつくってほしいと思います。

* * *